

## 戸沢政盛と鹿嶋神社



鹿嶋神社の例大祭

出羽国角館の戦国大名である戸沢政盛は、鬼九郎と称された戸沢盛安を父にもち、上杉景勝の陰謀を家康にいち早く知らせるなど関ヶ原の戦いでは東軍に属しました。この功により、佐竹義宣が秋田に国替えとなつたのち、常陸国茨城郡（旧小川町）と多賀郡（現高萩市）などに四万石が与えられました。

慶長七年（一六〇二）、十八歳の政盛は、現在の小川小学校周辺にあつた小河城に入城しましたが、多賀郡下手綱にあつた竜子山城を改修し、慶長十一年（一六〇六）、松岡城と名付けて居城としました。

その後も、政盛は、元和八年（一六二二）に新庄藩（山形）に国替えになるまでの約二十年間、小川の村々を治めていました。その間、天正年間の兵火で荒廃したとされる村々を再興していきました。

慶長十七年（一六一二）、二十八歳の政盛が再建に尽力した下馬場「鹿嶋神社」には、その際の記録「棟札」が残されています。

鹿嶋神社は、武甕稚命を御祭神に大同二年（八〇七）に創建したと伝わる神社です。明治から昭和前半にかけては、郷社として小川十二ヶ村の鎮守でした。例大祭は、毎年旧暦七月二十二日、二十三日で、かつては、勇壮な「流鏑馬」や「風祭り相撲」が行われていました。特に流鏑馬は、「七日祭り」と称される難行を通じ、神に奉仕する若者が参加していました。初日の流鏑馬が終わるまで、一切言葉を交わすことができない「無言の行」から始まります。現在では、流鏑馬は行われなくなりましたが、例大祭は新暦八月二十二日に

政盛が小河の地を去つて三〇〇年以上経つた、昭和二年八月、政盛の子孫である戸沢正己子爵が鹿嶋神社に宝刀を奉納した記録があります。代々の戸沢家が小川への温情を絶やさずに心に留めていたことが分かる逸話です。残念ながら奉納された刀は、戦後に徴収されて今は無いといいます。

